

資料と公共性 : 2021年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦

九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

池上, 大祐

琉球大学国際地域創造学部 : 准教授

今井, 宏昌

九州大学大学院人文科学研究院 : 専任講師

多川, 孝央

九州大学情報基盤研究開発センター : 准教授

他

<https://doi.org/10.15017/4772780>

出版情報 : 2020-03-07. 九州大学大学院人文科学研究院

バージョン :

権利関係 :

0. 「資料と公共性」共同研究の趣旨と2021年度の活動

0. はじめに

本報告書は、2018年度（平成30年度）より、日本学術振興会科学研究費補助金の助成を受けて活動中の共同研究について、2021年度の研究成果の一部をまとめたものである。当初は、2020年度までの3カ年の助成の予定であったが、新型コロナウイルス感染症パンデミックのため、最終年度にあたる2020年度は、当初予定の計画をほとんど実施できなかったため、2021年度への繰越申請を行い、認められたものである。ここでは、共同研究の趣旨と2021年度の活動を提示する。

1. 全体の要旨

本共同研究は、国際化、情報化の急速な進展のなか、歴史資料を初めとする文化遺産を、「公共的」観点から公正かつ適正に管理と利活用するあり方について、理論的かつ実践的に研究することを目的とする。

国際化、情報化が進行する世界、社会において、歴史資料を文化遺産として利活用しようという動きが進んでいる。他方で、かつて国民国家が保証してきた公的な資料管理の基盤が、さまざまな点で揺らいでいる。いま、歴史資料、文化遺産を管理、保存、利活用する「主体」や「責任」について、従来とは異なる議論が必要である。

本研究の目的は、

- 1) 公共空間における文化遺産の利活用、管理、継承についての理論的、実践的基盤を再検討すること、
- 2) 文化遺産・情報資源の公共的な利活用、管理、保存を保证するための専門情報管理機関の再定義、実際にその業務を担う情報管理専門職のあり方、教育、学位制度、キャリア形成等の諸問題について、新しい視野から提言すること、である。

そこでは、激変する世界の動向に目を拓き、業界を越えた認識の共有を目指すこと、グローバルな情報化の動きに連動しながら、文化遺産、歴史資料管理の新しいステージを目指して、「公共空間」における専門知のあり方を再定義することも必要となる。「過去を遺し、今を伝える」公正な基盤作りに寄与することを目指すこの研究は、専門知のなかに充足する狭義の学問研究や、特定の社会的成果に奉仕する政策的研究とは異なり、教育と職場、情報の共有と責任などの関係に関わっている。

2. 2021年度の活動と本報告書

2021年度は、関連する学界動向の調査、検討を進めるとともに、シンポジウム、研究会を企画、開催する一方、他機関主催の企画に協力、後援した。

-1 : 「遠隔教育」に関するシンポジウムへの協力

2021年4月17日（土）14時~17時

Webex オンライン開催

シンポジウム「遠隔から考え直す歴史教育実践」

主催：九州西洋史学会（2021年度春季大会）

共催：九州歴史科学研究会

後援：高大連携歴史教育研究会

プログラム

岡崎 敦「趣旨説明」

池上大祐「オンデマンド型講義による歴史教育実践

—能動的な学びをどう確保するか—

今井宏昌「遠隔がつなぐ高大連携

—コロナ禍におけるグローバルな歴史実践をめざして—

多川孝央「『遠隔』から考え直す学習とコミュニケーション」

総合討論

-2 : 「公共史」研究会

2021年7月24日（土）13時30分~17時

九州大学伊都キャンパス イーストゾーン E-C-203 会議室、およびオンライン

報告

剣持久木「公共史の射程—書物、映像、博物館をめぐる—」

-3 : 日本アーカイブズ学会研究集会共催

2021年9月12日（日）14時~16時30分

Zoom オンライン開催

主催：日本アーカイブズ学会 2021年度第1回研究集会

「アーキビスト教育の新展開

—大阪大学・島根大学における認証アーキビスト養成の取り組み—

報告

菅真城、小林准士、清原和之

コメント

加藤聖文、津覇美那子

討論（ファシリテータ：富田三紗子）

-4：シンポジウム「情報管理組織のミッションと専門職養成」

2021年11月27日（土）13時30分~17時

会場：九州大学中央図書館4階 きゅうとコモンズ

オンライン、後日 YouTube 公開

主催：九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻、九州西洋史学会

共催：九州大学附属図書館、九州大学大学文書館、九州歴史科学研究会

プログラム

岡崎 敦 「趣旨説明」

大沼太兵衛「デジタル時代に求められる司書の専門性とは」

平野 泉 「アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか」

コメント：渡邊由紀子（九州大学附属図書館）

パネルディスカッション

本報告書では、研究会・シンポジウムでの報告をもとに、本書のために新たに書きおこされた論考を掲載した。研究会・シンポジウムで提出された報告は、いずれも鋭利な問題関心と作業の精緻さの両面で、個別の業績としての価値を有するものであるが、この報告書は、活動成果の速報とともに、個別論考をあらたに掲載することで、共同研究活動のドキュメントという性格も有している。その成果と価値については、読者諸兄姉のご意見、ご批判を待ちたい。最後に、研究会活動および報告書作成という共同事業に、積極的にご関与いただいた方々に、研究代表者として、あらためて御礼申し上げます。

（岡崎 敦）